

第2章 伊万里市のスポーツ振興における現状と課題

1. 生涯スポーツの振興

(1) 生涯スポーツの普及

伊万里市では、市民一人ひとりがそれぞれのライフスタイルに応じて、いつでも、どこでも気軽に楽しめるグラウンド・ゴルフやインディアカ、カローリングなどニュースポーツの普及に体育指導員を中心にとして取り組んでいます。



市さわやかスポーツ・レクリエーション祭

特に、グラウンド・ゴルフについては、地域や職場等で広く普及が図られ、各種大会も開催されるなど、その競技人口も年々増加傾向にあります。

また、各町公民館や子ども会等を中心に、市が所有するニュースポーツ用具の貸し出しも増えているなど、市民のスポーツへの関心は高まっていると考えられます。

しかし、「県民のスポーツ意識調査（平成13年度）」における成人（20歳以上）の週一回以上のスポーツ実施率では、県平均が27.1%に対し、伊万里市は10.9%と極めて低い実施率となっています。

このようなことから、市民のスポーツへの関心は高まっているものの、成人のスポーツが実践されていない現状に対応するため、市民が日常生活の中で主体的にスポーツに親しむことができるよう、スポーツに対する意識の高揚を図るとともに、自らスポーツに親しむことができる環境を提供していくことが必要であります。

また、各種スポーツ活動やイベントを行うためには、指導者や多くのスタッフが必要であることから、スポーツを支える人材を育成、活用していくとともに、大会運営にあたっては市民との協働により運営の充実を図るなど、各種スポーツ活動・大会等の継続に努めていく必要があります。

(2) 情報提供システムの整備

市民へのスポーツに関する情報については、現在、市広報や市ホームページ、ケーブルテレビなどを活用して提供しています。

しかし、一方向からの情報提供であるため、市民がどのような情報を求めているのかわからない状況にあることから、市体育協会等と連携を強化するなど、市民のスポーツニーズの的確な把握に努め、市民が求めるスポーツに関する情報を、あらゆるメディアを活用して積極的に提供していくことが必要であります。

(3) 地域スポーツ活動の促進

伊万里市内には、13の地区単位で体育協会が組織され、体育協会を中心として町民体育大会をはじめ、各種スポーツ大会が実施されていますが、その活動も地域により格差が見受けられるとともに、これらの活動を支えるスタッフの高齢化も進んでいることなどから、地域スポーツ活動の活性化が求められています。

また、以前は地域でソフトボールやバレーボールのチームなどが結成され、スポーツを通じて住民相互の交流が深められていましたが、経済状況の変化や少子化・核家族化の進展、趣味の変化などにより、年々チーム数も減少し、地域の一体感や活力の低下も懸念されています。



市民ゲートボール大会

このため、地域における連帯感を醸成するため、住民相互のスポーツ交流を促進していく必要があります。

2. 競技力の向上と見るスポーツの場づくり

(1) 競技力の向上

伊万里市においては、スポーツ振興の基盤となる組織として昭和29年に伊万里市体育協会が設立され、現在26の競技団体が加盟されています。



全国小学生陸上競技交流大会優勝報告

このようななかで、各競技団体では大会や講習会等を通して競技者の育成、強化に取り組まれ、全国大会等で好成績を挙げるチームや選手を輩出しております。

特に、近年の市内小・中・高校生の各種スポーツ大会での活躍は目覚しく、市民に大きな夢や感動とともに、地域に大きな活力を与えています。



第78回選抜高等学校野球大会入場行進

しかし、競技団体の中には少子・高齢化の進展等により、競技人口の減少や競技者の高齢化が進み、活動自体が停滞している団体が見受けられるほか、審判員等の確保など大会の運営等も危ぐされています。

また、専門の指導者不足や企業スポーツの衰退などにより、競技力のさらなる向上を目指し

て市外に進学又は就職していく有望な若者も増えてきているほか、中・高校に進学しても小学生の頃から継続している競技の部活動が存在しないため、競技を変更又は止めざるを得ない事態も生じています。

このようなことから、競技力の一層の向上を図るためには、競技団体の競技力の向上に向けた取り組みを促進するとともに、競技団体や学校等との連携を強化し、専門的知識を有する指導者の養成を行い、児童・生徒から成人まで一貫した指導ができるよう競技者の育成・強化を進めていく必要があります。

また、少子化によりスポーツクラブや部活動の存続も危ぶまれるなかで、学校の実情に応じてクラブ活動等を支援するなど、少子化に対応した取り組みを関係団体等と検討を進めるとともに、高齢化に対応した指導者や審判員等の確保を図っていく必要があります。

(2) 見るスポーツの場づくり

スポーツは、自ら行うだけではなく、スポーツを競技場で観戦したり、テレビで見たりして楽しむ「見るスポーツ」としての関心も高まっています。

このようなことから、伊万里市においては、これまで甲子園常連校を招いての招待高校野球大会やプロ野球ウエスタンリーグ等を開催してきたほか、平成18年3月には競技団体と連携し、地方での開催は初めてとなる全国高等学校女子ソフトボール選抜大会を誘致、開催するなど、国内トップレベルの選手のプレーを市民が身近に観戦できる機会を積極的に提供するとともに、本市の競技力の向上にも大きく貢献しています。



第24回全国高等学校女子ソフトボール選抜大会開会式

また、平成19年7月には全国高等学校総合体育大会ホッケー競技大会が本市で開催され、市民のスポーツに対する関心は高まるものと期待されることから、この機運を今後のスポーツ振興にいかしていくことが重要であります。

しかし、これらのスポーツイベントには、多額の経費を要し、現在の本市の厳しい財政状況のなかで、市及び競技団体での経費負担は困難であることから、継続して開催することが難しい状況になっています。

また、全国規模のスポーツ大会の開催については、その会場となるスポーツ施設の充実が必要不可欠であります。しかし、本市においては、これまで野球やソフトボールなど比較的施設が充実している競技種目に限定されている状況にあることから、市民のスポーツへの興味や関心をさらに高めるためには、多種・多様なスポー

ツに利用できる総合体育館の建設が求められています。

3. 指導者の養成と指導体制の整備

(1) 指導者の養成

地域でのニュースポーツの指導など市民と行政とのスポーツの調整役となる体育指導委員は、毎月一回の定例研修会等において地域のスポーツ指導者として研鑽に努められていますが、今日の多様化するスポーツニーズに体育指導委員だけで対応していくことは困難な状況にあります。



市スポーツ少年団交流大会

また、子どもたちのスポーツ活動を支えている本市のスポーツ少年団の指導者数は、108名（平成16年度）と県内では最も多く登録され、指導者の研修会等にも積極的に参加されておりますが、近年、勝敗に重点をおいた競技スポーツ的志向が強くなっており、様々なスポーツ活動を通して子どもたちの体力の向上とスポーツ交流を通して豊かな心を育むという、スポーツ少年団の本来の目的から逸脱してきている傾向も見受けられます。

さらには、高齢化の進展等により、各スポーツ団体での指導者が高齢化してきているとともに、人材が不足してきていることから、次代を担う若い指導者の育成が求められています。

さらには、高齢化の進展等により、各スポーツ団体での指導者が高齢化してきているとともに、人材が不足してきていることから、次代を担う若い指導者の育成が求められています。

(2) 指導体制の整備

伊万里市では、市民のスポーツニーズに応じて、適切な指導を行うため県の社会教育主事（スポーツ主事）や体力増進指導員を配置するとともに、指導者の資質の向上を図るため全国大会等で活躍する指導者を招いての研修会等を開催するなど、指導体制の整備を進めてきましたが、多様化・高度化するスポーツニーズには十分対応ができていない状況にあります。



少年野球教室（福岡ソフトバンクホークス・柴原選手）

また、近年急速に普及してきているニュースポーツについては、体育指導委員を中心として普及が図られ、高齢者を中心としてゲートボールやグラウンド・ゴルフは種目協会も設立されましたが、幅広い年代層に普及を図るためには、指導者を育

成していく必要があります。

一方、競技スポーツにおいては、優秀な成績を収めていた児童が小・中・高校と進学していく過程のなかで、部活の指導者の変更による指導方法の違いなどから、成績も伸び悩む傾向が見受けられることから、一人ひとりの能力、適性を伸ばすための一貫した指導体制が求められています。

このようなことから、多種・多様化、高度化していくスポーツニーズに対応していくために、学校・地域・競技団体等が連携を一層強化し、市民の個々のニーズや競技力の向上に繋がる適切な指導ができる体制の整備を促進していく必要があります。

4. スポーツ・レクリエーション施設の整備充実

(1) スポーツ・レクリエーション施設の整備

伊万里市では、昭和38年に陸上競技場を建設して以来、野球場、体育館、球技場、庭球場、武道館、弓道場など、市の中心部に位置する国見台公園に市民のスポーツの拠点となる施設整備を計画的に進めてきました。



伊万里湾大橋球技場

また、市有の運動広場や学校の屋外運動場への夜間照明施設、全天候型ゲートボール場をはじめ、平成17年度にはソフトボールなど多目的に活用できる伊万里湾大橋球技場を新たに建設するなど、市民がいつでも、どこでも、気軽にスポーツに親しむことができるよう施設の整備・充実を図ってきました。

しかし、ほとんどのスポーツ施設は、建設から年数が経過し、老朽化も進んでおり、特に多種・多様なスポーツで利用されている国見台体育館は、大会運営等にも支障を来していることから、競技団体や市民からも観覧席等を備えた新たな体育館の建設が強く求められています。

また、急速に普及するグラウンド・ゴルフをはじめとして、近年のスポーツニーズに対応した専用競技場や運動広場の建設も求められています。

(2) 既存施設の充実

伊万里市のスポーツ施設は、学校統合により社会体育施設として移管を受けた運動場や体育館等の施設が多いため、県内の他市より比較的多く、市内の広範囲にわたって設置していますが、そのほとんどの施設は、建設から年数が経過し、老朽化も進んでおり、改修等を必要とする施設も増加してきています。

一方、地域においては、住民自ら運動広場やゲートボール場等を整備するなど、身近にスポーツに親しめる環境づくり活動も進められています。

このようななか、スポーツ活動の場となる施設の維持管理は、スポーツ振興を図る上で極めて重要であることから、利用者の安全確保を最優先に、スポーツ施設としての機能を維持するため年次的に改修等を行う必要があります。

また、受益者負担の原則も踏まえ、市・利用者等が相互に協力し、市民との協働による効率的な維持管理方法を検討していく必要があります。